

SDGsをめぐる最近の動向



SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る



G20大阪サミット（SDGs主要分野）の成果



- **大阪首脳宣言**において、自由貿易の推進やイノベーションを通じた世界の経済成長の牽引と格差への対処、環境・地球規模課題への貢献等、SDGs主要課題についてG20首脳のコミットメントを再確認。
- G20議長国として、質の高いインフラ、防災、海洋プラスチックごみ、気候変動、女性、保健、教育の7分野において、リーダーシップを発揮。



SDGsの推進

- 大阪首脳宣言
- 持続可能な開発のための2030アジェンダに関するG20行動計画に基づく大阪アップデート
- STI for SDGs ロードマップ策定の基本的考え方
- G20開発コミットメントに関する大阪包括的説明責任報告書



質の高いインフラ

防災

海洋プラスチックごみ

気候変動

- **質の高いインフラ投資に関するG20原則**
→ 戦略的方向性として6つの原則を提示
- **インフラ開発における腐敗対策に関するG20グッドプラクティス集**

- 開発作業部会サイドイベント: **防災アジェンダの達成に向けた展望**
→ 防災の主流化、事前防災投資の重要性を確認

- **大阪ブルー・オーシャン・ビジョン**
→ 2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロを目指す
- **G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組**
→ G20による海洋プラスチックごみに対する具体的な行動を促進

- **G20として環境と成長の好循環に立脚した行動志向の共通理解**
→ 非国家主体も含めたあらゆるレベルでの取組について推進

女性

保健

教育

- **女性のエンパワーメントに関する首脳特別イベント**
→ 女性の労働参画、女子教育、女性起業家支援の重要性を確認
- **女性労働参画進捗報告書**

- **途上国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジファイナンス強化の重要性に関するG20共通理解**
→ UHC推進に向けたグローバルな取組を加速

- **G20持続可能な開発のための人的資本投資イニシアティブ**
→ 包摂的で強靱かつ革新的な社会を創造するための質の高い教育の実現に向けた取組強化

9月24-25日、国連において「SDGサミット2019」が開催され、日本からは安倍総理が出席。同サミットは、首脳レベルでSDGs採択以降過去4年間の取組のレビューを行い、SDGs達成のモメンタムを高めるために開催。グテーレス事務総長、ムハンマド=バンデ総会議長、各国首脳、国際機関の長が出席し、「SDGサミット政治宣言」を採択した。

安倍総理によるステートメント概要

- 人間の安全保障の理念に基づき、「誰一人取り残さない社会」を実現するため、**G20大阪サミット等において、環境、教育、保健、質の高いインフラ投資等の取組を主導。**
- 過去4年間、「SDGs推進本部」本部長として、「ジャパンSDGsアワード」や「SDGs未来都市」等、オールジャパンでSDGsを推進。**次のSDGサミットまでに取組を更に加速させる。**
- 今後の取組の鍵は、民間企業、地方創生、強靱かつ環境にやさしいまちづくり。
- **本年12月までに「SDGs実施指針」を改定し、進化した日本の「SDGsモデル」を示す。**



国連側出席者の主な発言

グテーレス国連事務総長

政府、民間、ビジネス、金融、市民社会、若者が行動を起こし、取組は進展したが、**あるべき姿からは程遠く**、いま取組を拡大しなければならない。**2030年までをSDGs達成に向けた「行動の10年」と**するため、(1)グローバルな取組、(2)ローカルな取組、(3)人々の行動(市民社会、メディア、アカデミア、若者等)が重要。今後、「行動の10年」を進めるためのプラットフォームを毎年開催。2020年9月に第1回会合を開催。

ムハンマド=バンデ国連総会議長

SDGs達成に向けた多大な努力を賞賛する一方、**達成状況に偏りや遅れがあり、取組の加速化が必要**。資金を確保し、貧困撲滅や教育に焦点を当て、2030アジェンダを主流化することが重要。一義的な責任を有する政府と、民間セクター、ユース、市民社会とが、**互惠的なパートナーシップを構築しなければならない**。

「SDGサミット政治宣言」概要

- (1) **SDGs達成に向けたコミットメントの確認**
- (2) **現状分析**(極度の貧困、子どもの死亡率、電気・水へのアクセス等で進展。他方、飢餓、ジェンダー、格差、生物多様性、環境破壊、海洋プラスチックごみ、気候変動、災害リスクへの対応に遅れ。)
- (3) **アクションの加速化**(資金、実施体制、地域の取組、強靱性構築、STI、統計等)





SDGs実施指針改定に向けた動き

2016年12月：SDGs実施指針策定（SDGs推進本部第2回会合）

「最初の取組状況の確認及び見直しは、2019年に開催される次回の首脳級のHLPF（ハイレベル政治フォーラム）（＝SDGサミット）を見据え、**2019年までを目処に実施**し、また、その後も首脳級のHLPFのサイクルに合わせ、少なくとも4年ごとに取組状況の確認及び見直しを実施することを検討する。」



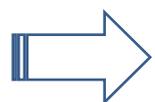
2019年9月6日：SDGs推進円卓会議構成員有志主催 「『SDGs実施指針』改定に向けたステークホルダー会議」

- 「SDGs実施指針」の改定に向け、幅広いステークホルダーの意見や考えを集めることを目的として開催。SDGs推進円卓会議構成員有志のほか、企業、市民社会、メディア関係者、学生等を含め約200名が参加。
- 議題は、「市民」・「企業」・「資金」・「地域」・「研究・教育」・「実施体制」・「レビューと指標」。



2019年9月9日：第8回SDGs推進円卓会議

- 円卓会議構成員有志から政府に対して、**「ステークホルダー会議」の成果に基づく提言を提出**。
- 「SDGs実施指針」の改定に向けた、今後の進め方や方向性について意見交換を実施。



様々なステークホルダーとの意見交換やパブリック・コメントを経て、12月に予定される次回のSDGs推進本部にて「SDGs実施指針」を改定。